

農業セミナー生と中核的経営体の合同視察研修会を開催しました

酪農後継者育成の一環として県内全域の若手酪農家を対象とした農業セミナーと経営感覚に優れた中核的経営体の合同視察研修会を3月7日に開催しました。視察研修先は静岡県富士宮市のいでぼく、松下牧場といった先進的な酪農経営2事例で、酪農家7人が参加しました。

いでぼくは乳牛飼育と牛乳、乳製品加工販売をしています。ここでは「徹底した生産工程の衛生管理による6次産業化と顧客満足度向上」をテーマに視察しました。1次産業部門から2次、3次部門まで一貫した衛生管理、PDC Aサイクルに準じた生産管理、トレーサビリティへの対応など安全性確保のためのマネジメントシステムに加え、ホルスタイン種、ジャージー種、ブラウンスイス種といった品種の特徴を活かした牛乳、ヨーグルト、ジェラート等を製造するなど顧客のニーズに合わせた商品づくりの考え方について、経営主から牧場見学通路、加工施設で話を伺い、研修室で意見交換を行いました。

松下牧場は先進的な施設で省力的に乳牛を飼育しています。ここでは「IT技術の活用とカウコンフォートを目指した飼養管理による経営」をテーマに視察しました。フリーストールと搾乳ロボット等の省力的な飼養管理、乳汁成分値から疾病の早期発見や精度の高い繁殖管理、牛の欲求に対応できる快適な環境づくりについて話を伺いました。松下牧場は酪農教育ファームの活動を積極的に実施し、消費者に酪農理解醸成を図るとともに、消費者ニーズの把握に努め経営に反映しています。視察は経営主に場内を案内していただきながら、経営方針、コントラクター組織、乳牛の飼育や改良などについて幅広く説明を受けました。

いずれの経営も利益を規模拡大や施設整備に投資して、農場を改善しつづけており、参加者は熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われ、終了予定時間をオーバーしてしまいました。

帰路のバスの中では参加者が視察の感想（「ビジネスには投資が必要」、「社長の信念をもった経営に感銘」、「牛乳が食品であることを改めて感じ、衛生的に管理したい」、「6次化のヒントをもらった」など）を述べ合い、自農場の経営の参考になる有意義な視察であったという意見が多く寄せられました。



(写真) 視察風景 左：いでぼく施設内、右：松下牧場のコントラクター用たい肥